

日本庄延工業  
(本社・滋賀県東  
近江市、社長・磯  
部正信氏)は、ア  
ルミニウムスラ  
グのトップメーカ  
。2016年8  
月の非鉄総合商社  
・川嶋(本社・静  
岡県浜松市、社長  
・川嶋一義氏)を  
中心とした川島グ  
ループ入りから8  
年余り。「前期業  
績は売上高、経常  
利益ともに過去最  
高を計上」(磯部  
社長)した。磯部  
社長に足元の業績  
や投資案件など経  
営戦略を聞いた。

(白木 毅俊)

——日本庄延工業の  
生産品目は合金・純  
アルミスラッグ、冷間  
圧延アルミコイル、  
アルミ板(一般材)、

## 日本庄延工業の経営戦略

### 磯部 正信社長に聞く



インパクト加工品。8月のスタートだが、まず、前期(24年7月期)の業績の総括から。 「24年7月期業績は売上高が前期比8%増の45億6千万円、経常利益が同3・2倍の3億6200万円。売上高、経常利益はいずれも過去最高だった。好決算となった要因は、アルミ地金価格が押し高値圏で推移するなどプラス要因が重なったため。ただ、業績は年間を通して好調だったわけではない。昨年

8月のスタートだが、業績は1Q(8〜10月)、2Q(11月〜1月)、3Q(2〜4月)は当初の計画で推移し、4Q(5〜7月)が突出して良かった。5月のハードディスク用(投資額約5億円)を20年2月に本格稼働させました。

## 23年度経常益最高、今期も堅調見通し

### アルミ循環使用率も59%に伸長

月から急回復している。さすがに過去のピーク時には及ばないものの、在庫調整が一段落したためか、こちらも0トプレス導入は、3000系消火器容器など大型インパクト容器の整備と倉庫(敷地面積約500平方メートル)の新設する。同倉庫は一部を加工品倉庫とし

「当社は長年、消火器メーカーに対し100系の消火器容器を流化工事(投資額1億2千万円)を更新した。1602千円を刷新した。今期案件は約1億5千万円でスクラップヤーでは、親会社・川島グループのネットワークと協力が大きな利点だ。アルミ展伸材での循環使用率は21年度が

「前期の案件になるが、今夏にモーター交先駆けて、水平リサイクルに挑戦中だ。ここで、さらなるCO<sub>2</sub>削減に努めている。滋賀は近江商人の町。『三方よし』の精神を忘れず、夢をかたちに変える企業を目指してい

「前期(25年7月)業績予想は。売上高は前期並みの46億円、経常利益は1600ト縦型インパクトプレス」6200万円を見込んでいる。 「投資額約5億円)を20年2月に本格稼働させました。 「今期設備投資は。 「今期設備投資は浮く。これ以外では今後3期をかけて、トランスなど特高受変電設備を総額4億5千万円を更新する予定。後熱鍛圧延機2基を連結」を採用している。

「水平リサイクル(アルミ展伸材を新熱工程が少なく高い生産性を有し、CO<sub>2</sub>排出量も非常に少ない。加えて溶解炉へのリジエネバーナー導入などで、さらなるCO<sub>2</sub>削減に努めている。滋賀は近江商人の町。『三方よし』の精神を忘れず、夢をかたちに変える企業を目指してい

39・6%(リサイクル材使用量2618ト)、22年度が36・7%(同2214ト)、23年度